

🍷 **オーサー・ビジット 教室編**

2020.12.22

いま求められる「生き延びる力」 教育評論家・尾木直樹さん@東京・田園調布学園中等部・高等部



文：安里麻理子 写真：永友ヒロミ

本の著者が全国各地の学校を訪ねて特別授業をする朝日新聞社主催の読書推進事業「オーサー・ビジット」。尾木ママの愛称でNHK「ウサの保護者会」などでもおなじみの教育評論家・尾木直樹さんは東京都の私立田園調布学園を訪れ、コロナ禍で将来への不安に揺れる中学生、高校生にエールを送りました。（このビジットはベルマーク教育助成財団との共催です）

Share

お話を聞いた人

尾木直樹(おぎ・なおき)

教育評論家

1947年滋賀県生まれ。中学、高校の国語教師を22年間務めた後、大学教育にも20年以上携わる。法政大学名誉教授。臨床教育研究所「虹」所長として、いじめや子育てなどの問題について現場に根ざした調査、研究、評論を展開。こびこびこびとては、尾木直樹の



いま読まれています

- 1 モンテッソーリ教育で〈自分で考えられる子〉に育てる 専門家による実践的なほめ方、叱り方
- 2 アガサ・クリスティー作家デビュー100年 「記憶はウソをつく」から読み解く、カズオ・イシグロとの共通点
- 3 塩田武士さん「デルタの羊」インタビュー 「40歳目前でアニメにハマった」作家が描く「日本アニメ」のリアル
- 4 「美しい万年筆のインク事典」武田健さんインタビュー 色の数だけ物語がある
- 5 「世界のスノードーム図鑑」モチーフは自由！「飾り窓」やマリファナも!?

人気ランキング一覧 ▶

注目記事[PR]

【21年度パソコン学習新指導要領スタート】IT系両親が選んだ“学習用PC”とは

PR(レノボ・ジャパン合同会社)

数十年という時間に磨かれた、新しいクルマ

コロナが変えた中高生の意識

「フェイスシールドは髪が乱れるから困るのよ〜」

演台のアクリルボード越しに、そんな第一声で会場を沸かせた教育評論家の尾木直樹さん。新型コロナウイルスに見舞われた2020年の11月、これまでと様相の一変した授業が始まった。会場の講堂には、中高の図書委員50人と生徒128人、そして500人を超える聴講申し込みがあった保護者の一部が着席。全員マスク着用で、ソーシャルディスタンスを保つため、収容可能人数の半数ほどに絞っての開催となった。入りきれなかった保護者は別途用意された3会場でライブ中継を見守る。

尾木さんの熱いトークに聴き入る生徒たち

「今年はコロナのせいで、世界で15億人の子どもたちが休校などの憂き目に会いました」と、尾木さん。子どもだけではない。教育現場も翻弄された。これまでの教育は「密」ありきで、いかに教師と生徒が、また生徒同士が距離を縮めるかに注力されていた。「そうやって積み重ねられてきた実績が、いきなり足払いされてしまったの」。口調こそ「尾木ママ」らしい柔らかさだが、内容は教育評論家の本領発揮だ。

「でも、絶望しないで。人類は過去にもペストなどのパンデミックを経験しています」。そこから何を学び、未来に託したか。参考にと本を紹介した。

謎の感染症をテーマにしたSF小説『復活の日』（小松左京著、角川文庫）、歴史を振り返る対談集『世界史に学ぶコロナ時代を生きる知恵』（出口治明・鹿島茂著、文春ブックレット）、世界の知識人へのインタビュー集『コロナ後の世界』（大野和基編、文春新書）を挙げ、「どれも示唆に富んでいて、afterコロナ、つまりワクチンが開発され、普及した後の世の中を考える機会にもなる」。

尾木さんが事前に行ったアンケートの回答にも、「コロナのために、当たり前だった事が当たり前ではなくなった」といった日常生活への不安のほか、「進路が決められない」「3月に高校を卒業してすぐ大学生になるのは早いのでは」「日本の教育を変えたい」という意見が。先の見えない不安が、中高生の意識にも変化をもたらしたようだ。

大学への道のりはひとつじゃない

回答の多くに進路への迷いが寄せられていたことから、尾木さんは自身の苦い思い出を吐露した。「尾木さんはよっぽど教師になりたかったんですね、とか言われるけれど、全然違う。ジャーナリスト志望だったし、学校の先生には不信感いっぱいだった」

決定打は高校生の時。体罰をする教師に抗議したら単位不足にされ、1年生を2回やるはめに。年下の同級生になじめず、「自分は異質だ」と感じていた。「放課後は図書館に直行して閉館まで時間つぶし。精神的な引きこもり状態だった」

そんな尾木さんに、お母さんは教職に就くことを勧めた。「体罰や引きこもりを経験しているからこそ、直樹はいい先生になる」と。「母ちゃん何言ってんの、と思ったけれど、ハッとしました。私、マイノリティの子の気持ちがわかるって」。以来、子どもたちの声なき声に耳を傾け続け、今がある。

大学についても、「OECD（経済協力開発機構）の調査では、日本の大学1年生の平均年齢は18.3歳。加盟国32カ国の平均21.8歳の中で最も早い」。海外では、一度社会に出たり、ボランティア活動をしたりして、学びたいことを見つけてから進路を決めるケースも多いとか。「18歳で大学生になる国なんてグローバルじゃないのよ」

さらに、「キャンパスを持たない大学もあります」と、アメリカの私立ミネルバ大学の例を

毎日のコーデの強い味方！ベルトが選べるKnotの腕時計 [👉](#)

PR(Knot)

外壁・屋根のリフォームで助成金がもらえる5つの条件とは？ [👉](#)

PR(株式会社Speee)

Recommended by [L9](#) LOGLY

関連サイト

聞社のニュー [朝日新聞社のニュースサイト](#)
朝日新聞デジタル

アクリルボード越しにあいさつする尾木直樹さん

協働、バランス、客観視の力を

また、アンケートには、「自分は文系志望だけれど、親が就職に有利だからと理系を勧めると」という相談もあった。コロナ禍で休業や失業に追い込まれる人が急増し、2030年には日本の労働人口の49%がA I（人工知能）やロボットに代替されるという試算もある。理系のほうが、と思う気持ちは分からなくない。

「でもね、名門ハーバード大学の医学部は、文学や絵画鑑賞を必修科目にしたのよ。理系でありながら文系の力も重視しているの」。臨床で欠かせないコミュニケーション力や洞察力の育成には、文系の能力が欠かせないということか。「膨大な暗記やそこから導き出されるアウトプットはA Iに任せればいい。人間の役割はA Iにできないこと、その使い方を考えることじゃないかしら」。

では、どうすれば人間にしかできない力を伸ばせるのか。

尾木さんは、「エデュケーション2030」というOECDが取り組んでいる教育プロジェクトについて言及した。これは2015年に始まった、2030年までに子どもたちに求められるスキルや行動特性を調査・研究する事業だ。「生き延びる力」の育成を提唱し、日本の学習指導要領にも影響を及ぼしている。

そのために必要とされる3つの能力、「Creating new value」「Reconciling tensions & dilemmas」「Taking responsibility」を尾木さんはそれぞれ、「協働して新しい価値を創造する力」「危機的状況に際してもバランスがとれる力」「自己を客観視し説明責任を負える力」と解釈し、「アンケートにも、自粛生活で自分を見つめ直す機会が増えた、という声がたくさんありました。これは、客観視の力を養う時間が増えたということ。そうやってコロナというピンチをチャンスに生かして！」。

芥川舞渾（まり）さん（高1）は、「内容の濃い授業でした。本を通して教育に携わる図書館司書になりたいので、尾木さんが実践されてきた教育についても知りたくなりました」。

生徒たちの意識の高さに尾木さんも刺激されたようだ。終了間際、「どうしよう、話し足りない！」と焦る。一人ひとりの未来を思うと居ても立っても居られない様子に、マスクの下の口元がいっせいにほころんだ。

あわせて読みたい

自己決定が自立への道 教育評論家・尾木直樹さん@埼玉・三郷市立新和小学校

ワクワク 憧れの人が先生 オーサー・ビジット2020 希望校募集

いじめをなくす3つの「しぐさ」試してみてね 教育評論家・尾木直樹さん@神奈川・横...

毎日のコーデの強い味方！ベルトが選べるKnotの腕時計 (PR)Knot

Recommended by  LOGLY

安里麻理子（アサトマリコ）


ライター

永友ヒロミ（ナガトモヒロミ）

フォトグラファー

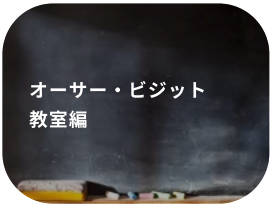
東京生まれ。学校広報、グラフィックデザイナー、OLなどを経て写真の道へ。手仕事や古いもの、異文化を体感できる旅に惹かれる。

好書好日
Good Life with Books

旅する 味わう 考える 絵本 文芸 ミステリー コミック ビジネス そっとする 企画「谷原書店」 もっと見る 

Share   

この連載をもっと読む



オーサー・ビジット
教室編

- いま求められる「生き延びる力」 教育評論家・尾木直樹さん@東京・田園調布学園中等部・高等部
- 感性を信じてあきらめない 絵本作家・宮西達也さん@和歌山・海南市立日方小学校
- ワクワク 憧れの人が先生 オーサー・ビジット2020希望校募集

第一線で活躍する本の著者たちが小中高校で行った特別授業の模様を紹介します。(不定期更新)

連載一覧 ▶

関連する本棚

<p>復活の日 改版 (角川文庫)</p> <p>著者：小松左京 KADOKAWA</p> <p>紙書籍で買う</p> <p>電子書籍で買う</p>	<p>世界史に学ぶコロナ時代を生きる知恵 (文春ブックレット)</p> <p>著者：出口治明 著者：鹿島茂 文藝春秋</p> <p>紙書籍で買う</p> <p>電子書籍で買う</p>	<p>コロナ後の世界 (文春新書)</p> <p>著者：ジャレド・ダイヤモンド 著者：ポール・クルーグマン 文藝春秋</p> <p>紙書籍で買う</p> <p>電子書籍で買う</p>
--	---	---



学習まんが小学生日記 尾木ママと考える！ぼくらの新道徳1…

監修：尾木直樹
イラスト：金田達也
小学館

紙書籍で買う

電子書籍で買う

編集部一押し！



滝沢カレンの物語の一步先へ
滝沢カレンの「きまぐれ口ポット」の一步先へ

そっとする 愛でる 夫婦

滝沢カレン



大好きだった
辻堂ゆめさんがひたすら読みふけた星新一のショートショート 刺激たっぷり、大人への入り口

愛でる SF 記憶

辻堂ゆめ



藤巻亮太の旅是好日
藤巻亮太の旅是好日 実家の葡萄作りから、SDGsを考える

考える 環境 地球

藤巻亮太



ブックデザインの冒険
装丁家・矢萩多聞さん「いい本には湯気が出ている」取材にも足を運び、まるごと1冊をつくる熱量

愛でる デザイン 京都

笹川ねこ



朝宮運河のホラーワールド涉猟
高原英理さん「観念結晶大系」インタビュー 鉱物を介して世界の真実に触れる、硬質な幻想小説

愛でる 幻想 ことば

朝宮運河



コラム
アガサ・クリスティー作家デビュー100年 「記憶はウソをつく」から読み解く、カズオ・イシグロとの共通点

そっとする ミステリー 受賞作

川口あい

あなたへのおすすめ

インタビュー

「可愛い戦争から離脱します」 整形を繰り返した、整形アイドル轟ちゃんが今思うこと

五月女菜穂

インタビュー

「これからの男の子たちへ」太田啓子さんインタビュー 男子にこそ正しい性教育が必要だ

玖保樹鈴

インタビュー

コウケンテツさん「本当はごはんを作るのが好きなのに、しんどくなった人たちへ」インタビュー 簡単…

根津香菜子

PR

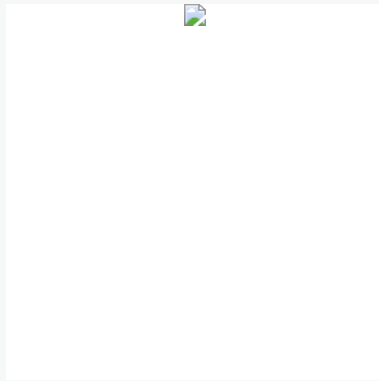
「コレだけで!？」平均104万円もらえる火災保険金の裏ワザ

火災保険申請事務局

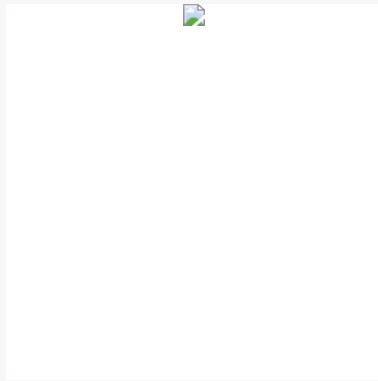


旅する 味わう **考える** 絵本 文芸 ミステリー コミック ビジネス そっとする 企画「谷原書店」 もっと見る

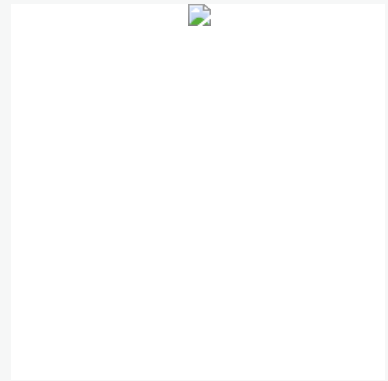
PROMOTION



【話題のベストセラー】池上彰監修『なぜ僕らは働くのか』 子どもも大人も前向きになれる一冊
PR by 学研プラス



オーサー・ビジット 教室編
感性を信じてあきらめない 絵本作家・宮西達也さん@和歌山・海南市立日方小学校



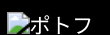
トピック
『頭を「からっぽ」にするレッスン』を、「好書好日」メルマガ読者5人にプレゼント



Follow *好書好日*
Good Life with Books



このサイトについて | サイトマップ | サイトポリシー | 個人情報 | 全サイト共通利用規約 | じんぶん堂利用規約
運営会社 | 広告ガイド | お問い合わせ



Copyright(c) The Asahi Shimbun Company. All Rights Reserved.